

今、卒業証書を手にした、七十四名の卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございませす。

コロナウイルス感染症対策をしての中ですが、高根沢町教育委員会、教育長、〇〇〇〇様、同じく教育委員、〇〇〇〇様、そして学校運営協議会、委員の方々の御臨席のもと、「高根沢町立 北高根沢中学校、第七十六回 卒業式」を、挙行できませすこと、厚く御礼申し上げます。

さて、皆さんの学年は、中学校で一番コロナウイルス感染症に、影響を受けた学年です。全国一斉休校のため、中学校の入学式が、六月に延期され、二か月間、不安な日々を送ったことでしょう。

また、中学校生活がスタートしてからも、マスクでの生活、給食は黙食、そして自粛、縮小、延期の連続でした。体育祭、見学旅行、合唱コンクール、総合体育大会・どれも、それまでの年とは、大きく違ってしまいました。校長として、多感な中学生だから、様々な学校行事や、友達との関係から、いろいろなことを学ばせることができるのに、本当にそれができるのか、とても不安に感じていました。

このような中、みなさんとの出会いは、二年生の春でした。みなさんは、このような状況の中でも、前を向き、何事にも、どうすれば実施できるのかを考え、二年生の大きな行事、マイチャレンジや、立志式

に、真剣に取り組んでいました。そんなみなさんを、一年間見ていたので、三年生になってからの修学旅行は、「北高根沢中学校の三年生なら大丈夫」という信頼があり、京都・奈良への修学旅行を、三年ぶりに、予定どおり実施するという、決断ができました。修学旅行の、班別自由行動が終了して、ホテルに帰ってきた時のみなさんの笑顔を見たとき、本当に実施できてよかった、と強く感じました。

また、三年ぶりに、町民ホールで実施できた合唱コンクール、「歌う時は、マスクを外してもよい」というルールの下、三年生だけは、クラスのために、全員がマスクを外して歌っている姿に、感動し、講評では思わず涙がこぼれました。

この他にも、体育祭、校則の変更、生徒会主催の球技大会など、いろいろなことに、学校の中心となりチャレンジしていました。みなさんを信頼しているので、どれも全力で応援することができました。

そんな皆さんに、校長として、そして、本校を卒業した先輩として、九年間の義務教育を修了した証明である、卒業証書を一人一人手渡すことができ、本当に幸せを感じています。

さて、今日は卒業する皆さんに、最後のお願いがあります。それは、本校で学んだことを忘れず「自分が置かれた場所で、今できることを、精一杯、素

直にやりとおしてくださいます。」

こんな気持ちで 学習や仕事をしていると、必ずそれを見て、助けてくれる人が現れます。次に、その学習や仕事ぶりを認め、褒めてくれる人が現れます。そして、認めてくれた人達が、自分のやりたい学習や仕事へと導いてくれます。これからの人生で、自分の思いどおりにならないこと、我慢してやらなければならぬことなど、たくさんあります。そんな時は、この言葉を思い出して、乗り越えてください。それがみなさんの、幸せにつながります。

保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業、誠に御礼申し上げます。私共教職員は、お子様の成長の一助になれるよう、日々努めてまいりました。至らない点も、多々あったことと思いますが、それにも関わらず、本校教育に、深い御理解と、温かい御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。いよいよお別れです。自分が学び巣立っていく、北高根沢中学校、そして自分が生まれ育った郷土、高根沢町を愛し、国際的な広い視野と、より高い志を持って、自分の信じた道を、力強く前進してくれることを祈念し、式辞と致します。

令和五年三月十日

高根沢町立北高根沢中学校長 加藤 正明